

大阪狭山市文化財報告書30

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書**14**



平成16年(2004年)3月

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書14

平成16年(2004年)3月

大阪狭山市教育委員会

序 文

大阪狭山市内には大阪府の史跡名勝に指定されており、狭山池をはじめとして、数多くの文化財があります。狭山池ではダム化工事に伴う発掘調査によって多くの遺跡、遺構が出土し、東樋・中樋等が大阪府の指定文化財となりました。平成13年3月にオープンした大阪府立狭山池博物館では、この発掘成果を中心に展示し、多くの方々にご観覧いただいております。

本市教育委員会では、平成2年度より個人住宅などの建築に伴う発掘調査を継続的に実施してまいりました。本年度は狭山藩陣屋跡、陶器窯跡群などの遺跡で調査を実施し、貴重な成果を得ることができました。本書はこれらの調査成果をまとめたものです。本書が地域の歴史を考える上での一助となれば幸いです。

調査にあたりましては、建築主の皆様ならびに周辺の皆様にご多大なご協力を賜り、厚く感謝いたします。

今後とも本市文化財保護行政に対するご理解とご支援のほどを、よろしく願い申し上げます。

平成16年(2004年)3月

大阪狭山市教育委員会

教育長 岡 本 修 一

例 言

1. 本書は国庫の補助を受け、大阪狭山市教育委員会が平成15年度事業として大阪狭山市内で実施した個人住宅建築等に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査の結果をまとめた概要報告書である。
2. 本書に収録した調査は以下の通りである。
 - 1 狭山藩陣屋跡 03-02区、03-03区
 - 2 陶邑窯跡群 03-01区
3. 発掘調査は大阪狭山市教育委員会生涯学習推進課植田隆司が担当した。現地調査においては、鳥山文夫、米澤孝成、古西健治ら各氏のご協力を得た。
4. 内業調査については植田隆司が担当し、若宮美佐、橋本和美、笹岡裕里子、扶川陽子、實まり恵ら各氏のご協力を得た。遺物の撮影は有限会社阿南写真工房に依頼した。
3. 本書の執筆・編集は植田隆司が担当した。

本 文 目 次

(頁)

序 文	大阪狭山市教育委員会教育長 岡本修一	
例 言		
はじめに	1
1. 狭山藩陣屋跡	3
03-02区	6
03-03区	8
2. 陶邑窯跡群	03-01区	11
まとめ	14
出土遺物観察表	15
報告書抄録	16

はじめに

大阪狭山市内では1960年代以降に急激な人口増加が生じ、南部の丘陵地を中心に住宅開発が進んだ。1980年代以降はそのころの勢いは衰えたものの、小規模な開発は盛んである。また、近年では1960年代～1970年代に新築された住宅の建て替えの時期が到来しており、これらに伴う埋蔵文化財の発掘調査は微増の傾向にある。ことにここ数年は狭山藩陣屋跡の中心部において歩道の設置事業が進められており、その周辺において住居の移転や建て替えが頻繁に行われている。これにともなう発掘調査が本市における発掘調査の中心になっている。

大阪狭山市内の遺跡分布および地形分類は図1のとおりである。大阪狭山市は西側の泉北丘陵と東側の羽曳野丘陵にはさまれた場所に位置するが、この両丘陵の間に幾筋かの南北方向の谷筋が走っている。これらの谷筋からは旧石器時代・縄文時代の打製石器がいくつか発見されている。

弥生時代の遺跡としては市域南部の高地において弥生時代後期の高地性集落が検出された茱萸木遺跡がわずかに知られるのみである。

古墳時代以降の本市域内における人々の活動の痕跡は、近年の発掘調査成果によって、明確に認識可能なものとなっている。旧天野川流域の沖積低地に立地する池尻遺跡では、溝・土坑・焼土坑など住居跡となる可能性がある遺構とともに庄内式の甕・壺と布留式の甕が出土している。旧天野川右岸の中段段丘上に立地する狭山藩陣屋跡では、自然の谷地形の底部分からTK47型式の須恵器が出土しており、古墳時代中期の集落が段丘上に存在した可能性が高い。古墳時代中期以後、泉北丘陵を中心とした地域に陶器窯跡群が形成された。5世紀後葉から6世紀前葉までの本市域内における窯の造営は、陶器山丘陵およびその北方に連続する高位段丘のみに限定される。発掘調査が行われた窯跡としては、TK47型式～MT15型式の須恵器を生産した陶器山252号窯(MT252・山本1号窯)や陶器山15号窯(MT15)がある。6世紀後半の陶器窯跡群における生産活動はより活発なものとなり、その分布域は東方の中段段丘へと拡大する。TK43型式～TK209型式の須恵器を産出する窯跡には、太満池北窯・太満池南窯・狭山池2号窯・狭山池3号窯・池尻新池南窯・今熊1号窯がある。7世紀に入ると本市域内における須恵器窯の数は減少するが、狭山池主谷周辺での操業は継続し、狭山池5号窯・東池尻1号窯・狭山池1号窯・狭山池4号窯・ひつ池西窯などが確認されている。

7世紀前葉、狭山池主谷を横断する全長約300m・全高約6mの堤を築くことによって旧天野川(西除川)と三屋川の流れを堰き止め、ダム式のため池である狭山池が造られた。狭山池における発掘調査では、中樋・東樋・西樋・木製杵工など、各時代の灌漑遺構が検出された。旧天野川兩岸の中段段丘上には、7世紀後半の東野廃寺、中世城館の池尻城跡、中世集落の庄司庵遺跡、古代～中世の寺院跡である狭山神社遺跡、近世城館の狭山藩陣屋跡など、古代から近世にかけての諸遺跡が成立している。

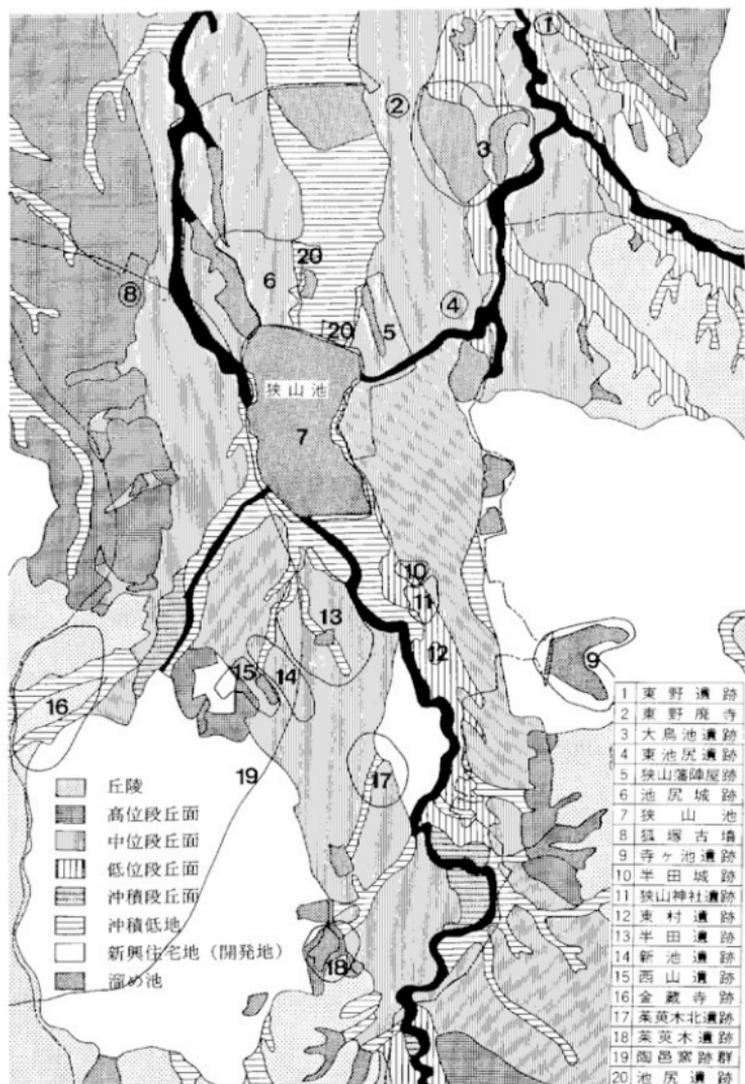


図1 大阪狭山市域の遺跡分布と地形分類

1. 狭山藩陣屋跡

狭山藩陣屋跡は、狭山池東側に広がる中段丘上に立地する近世城館跡である。豊臣秀吉によって小田原城を落とされた戦国大名北条氏の末裔が、近世初期にこの地に陣屋を開き、以後明治維新にいたるまでの間、一貫して陣屋が営まれていた。陣屋は北側の上屋敷と南側の下屋敷にわかれているが、御殿は上屋敷のもっとも北側に設けられ、その周辺には上層の武士の屋敷が建ち、上屋敷の外周部や下屋敷には下層の武士が居住していた。また、下屋敷は狭山池に面した景勝の地であり、藩主の別邸も建てられ、広大な馬場が備えられるなど、宅地が密集した上屋敷とは若干異なった空間であったようである。

狭山藩陣屋跡では1987年以降、大阪府教育委員会や大阪狭山市教育委員会によって発掘調査が継続されている。いずれも小規模な発掘調査ではあるが、その成果を組み合わせることによって陣屋の構造が明らかになりつつある。これまでの調査では陣屋が建築された近世初期を遡る遺構・遺物はほとんど検出されていない。上屋敷についてはほぼ全面にわたって上下2層の遺構面が確認されており、出土遺物からみて上層遺構面は天明2（1782）年の大火以後の遺構面、下層遺構面はそれ以前の遺構面と考えられる。個々の遺構の性格は多様であるが、遺物を多く含むのは家屋の周辺と思われる箇所に掘削された土坑が中心である。おそらくは火災などの跡でこうした土坑に廃品が投棄されたのであろう。出土遺物は日常的な生活用品が中心であるが、硯、水滴などの文房具の出土が比較的多いのは武士の生活の一端を示すものであろう。産地は肥前や堺など国内のものが中心であるがまれに外国産のものがみられる。

また下屋敷では、2002年・2003年にその中心部において住宅開発工事に伴う発掘調査を実施し、家臣の屋敷地や、御殿・馬場などに相当すると思われる地域を調査した。これらの下屋敷中心部では、狭山池へと合流する2本の支谷を、大規模な造成工事を実施して埋め立て、広大な平坦面を形成したのちに陣屋の各種施設を構築したことが判明した。その下屋敷造成工事の時には、古墳時代中期の集落や古墳時代後期～飛鳥時代の須恵器窯跡などの破壊が伴ったようである。下屋敷中心部における発掘調査成果については、2004年刊行予定の「平成15年度狭山藩陣屋跡・狭山池5号発掘調査報告書」『大阪狭山市文化財報告書31』において詳細を報告する予定である。

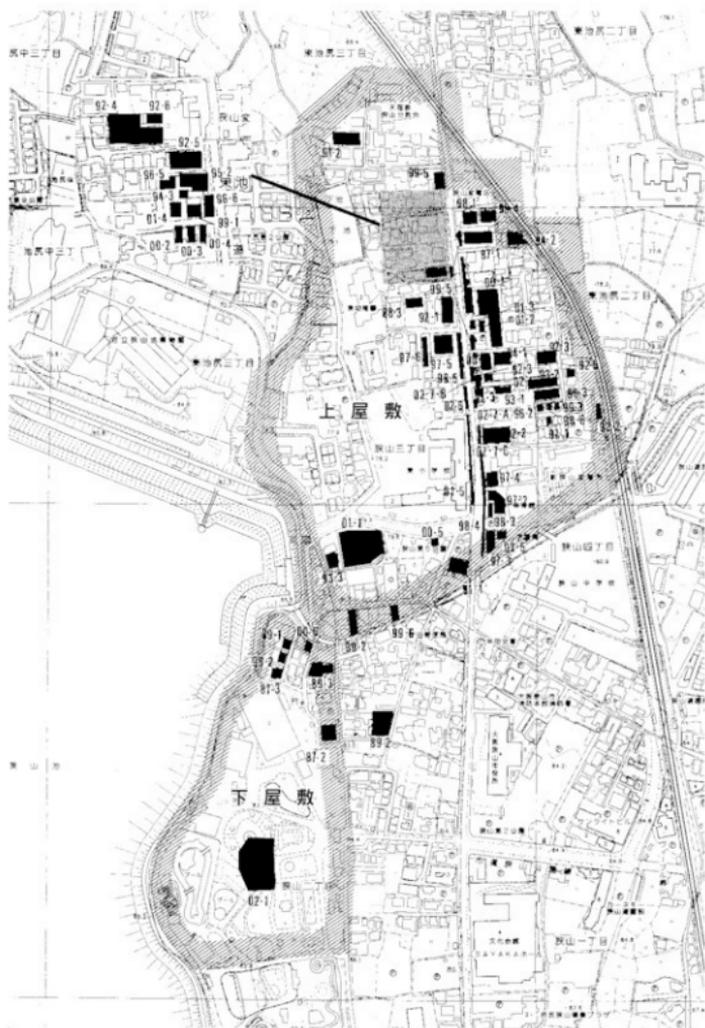


図2 狭山藩陣屋跡における既存の調査箇所 (S = 1 / 5,000)

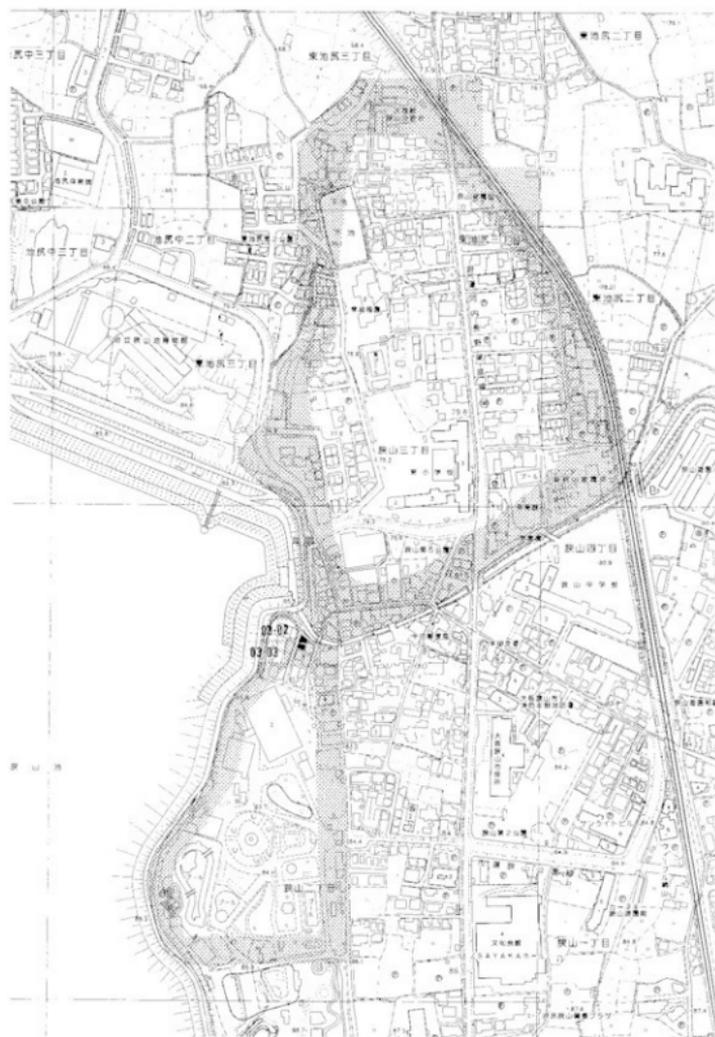


图3 狭山蒲陣屋跡調査区位置图

03-02区

本調査区は狭山2丁目1052-8に所在する。住宅の建築に伴って発掘調査を実施した。予定される建築物の規模に合わせて南北4.7m・東西約2.1mの調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。確認した遺構面は1面のみである。

遺構面は現地表面下約35cmの深さに存在する。地表から深さ20cmまでは整地層が続き、その直下で淡黄色砂質土の遺物包含層があらわれる。包含層の厚さは約15cm。遺構は黄灰色砂質土の地山面に形成されている。各遺構の埋土は暗黄灰色系の砂質土であった。遺構面では、土坑8箇所・ピット1箇所を検出した。径約100cm・深さ25cmを測る土坑1は、径約160cm・深さ10cmを測る土坑4の埋土を切って掘り込まれている。この土坑1の埋土中からは、1の土師質皿1点が出土している。また3の土師質の器種不明資料もこの埋土から出土している。長径100cm以上・短径45cm・深さ15cmを測る土坑5の埋土は土坑1とほぼ同じ土質であった。この埋土中からは、2の甕が出土している。

明治初期に作成された『狭山蒲陣屋跡下屋敷図』をみると、本調査区が位置するところは、「花村春雄」邸およびその西側の空白地であると推定される。本調査区で確認された遺構・遺物は近世後期以後のものとして推定される。

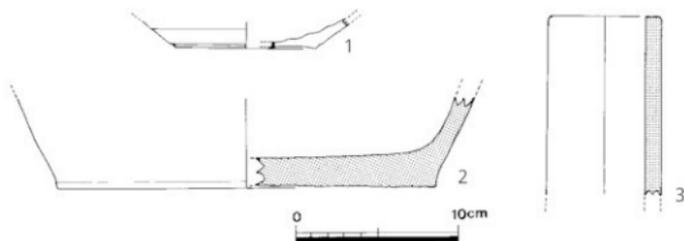


図4 狭山蒲陣屋跡03-02区出土遺物

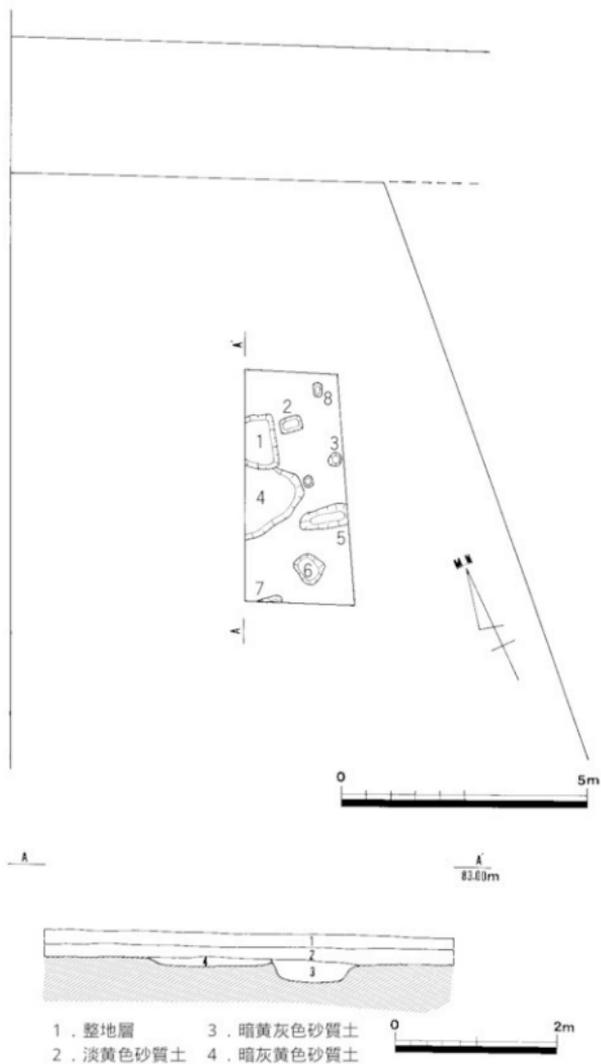


图5 狭山藩陣屋跡03—02区遺構平面断面图

03-03区

本調査区は狭山2丁目1052-7に所在する。住宅の建築に伴って発掘調査を実施した。予定される建築物の規模に合わせて南北約2.0m・東西5.0mの調査区を設定し、機械および人力で掘削をおこなった。また、遺構出土状況に合わせて、北側に拡張区を設定した。拡張区の規模は、南北1.1m・東西2.2mである。なお、本調査区は03-02区に南接する。

遺構面は現地表面下25cmから30cmの深さに存在する。地表から深さ約15cmまでは整地層が続き、その直下で淡黄色砂質土の遺物包含層があらわれる。包含層の厚さは約17cm。遺構は03-02区と同じく、黄灰色砂質土の地山面に形成されている。各遺構の埋土も同調査区と同じく、暗黄灰色系の砂質土であった。遺構面では、土坑2箇所・埋篋2・ピット1箇所を検出した。長径約100cm・短径約70cm・深さ25cmを測る土坑2の埋土中からは、4の磁器小椀と3の甕が出土している。調査区中央付近および調査区北西隅では、埋篋が検出された。埋篋1で検出した1の陶器甕は、内面に白色の汚れが遺存している。おそらく、便壺として使用されていたものであろう。埋篋2で検出した2の土師質甕は、そのような痕跡が認められないことから、床下の湿気抜きや台所の流し横の貯留槽など、他の用途が想定されよう。

本調査区の位置は03-02区と同じく、『狭山藩陣屋跡下屋敷図』では「花村春雄」邸およびその西側の空白地に相当するものと推定される。本調査区で確認された遺構・遺物は近世後期以後のものとして推定される。

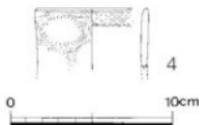


図6 狭山藩陣屋跡03-03区出土遺物(1)

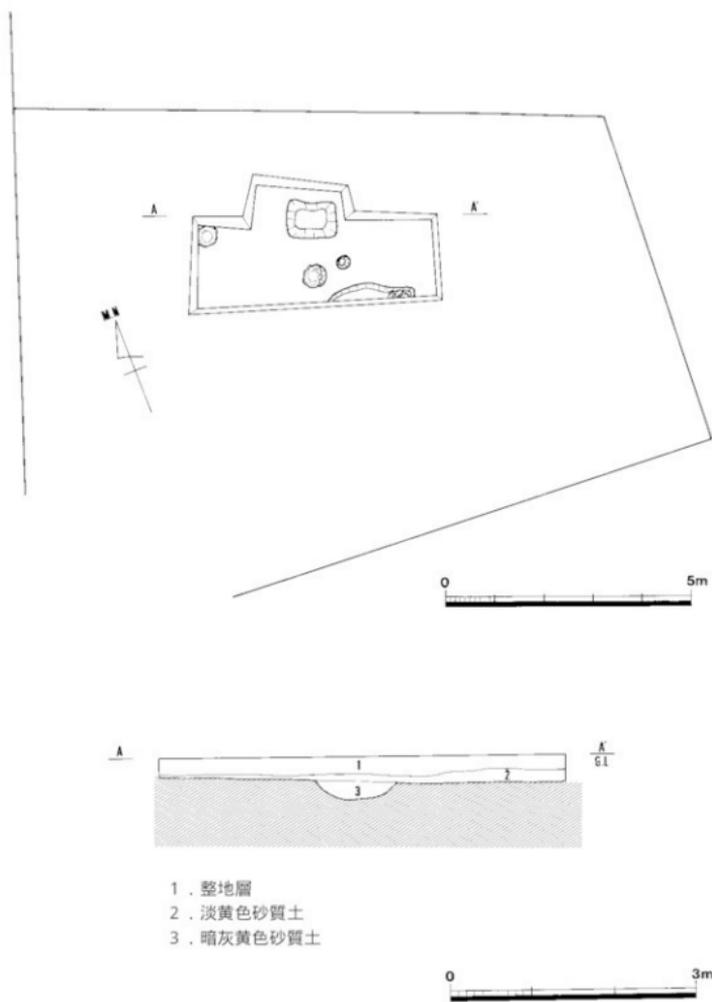


图7 狭山藩陣屋跡03—03区遺構平面断面图

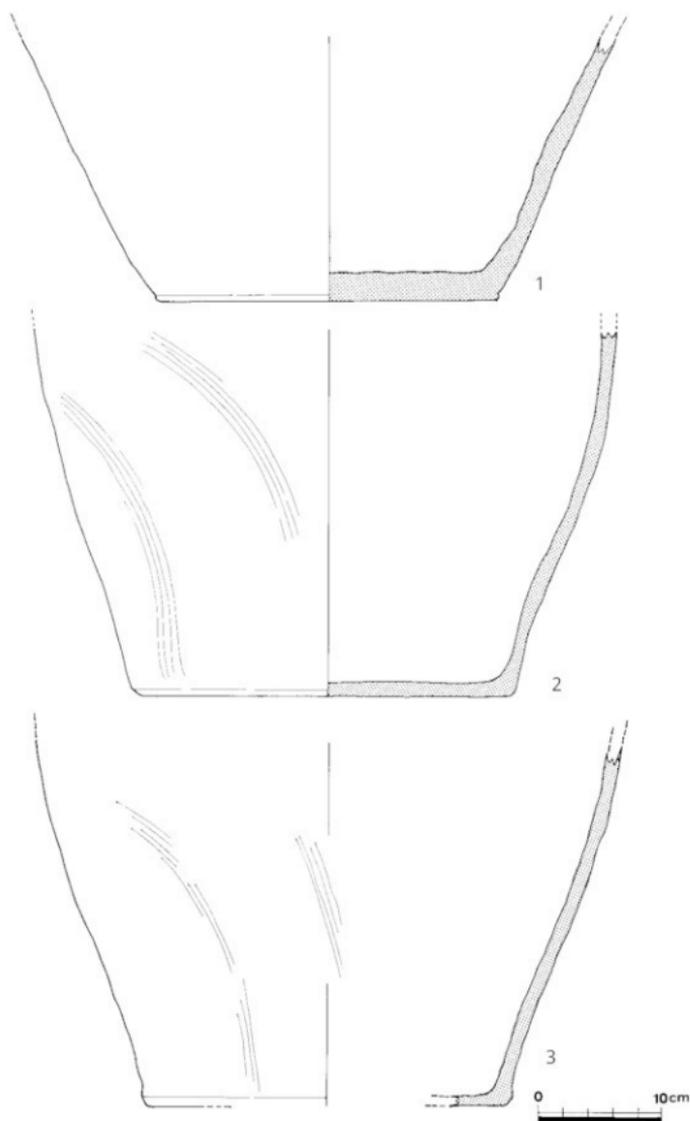


图8 狭山藩陣屋跡03—03区出土遺物(2)

2. 陶邑窯跡群

03-01区

本調査区は今熊2丁目1805、1806、1807の一部、1808-1の一部、1802-2に所在する。当該地は帝塚山学院大学がある西山の高位段丘の北端に隣接し、茱萸木新池が築かれている支谷の左岸の中位段丘上に立地している。西山の東側斜面と、茱萸木新池付近においては、古墳時代中期～後期の須恵器窯跡が何基が確認されている。本調査区においても、須恵器窯に関わる何らかの遺構が確認されるのではないかと期待された。

調査は、住宅建築予定箇所において、南北8.2m・東西1.2mの第1トレンチと、南北0.9m・東西4.0mの第2トレンチを設定して遺構の有無を確認した。第1トレンチでは厚さ10cmの整地層直下で地山面に達し、遺構・遺物は確認できなかった。第2トレンチでは地表下10cmで淡褐黄褐色シルト層を掘り込む、南北方向に伸びる溝1を検出した。溝1の幅は約90cm。埋土は上部が褐色砂質土で近現代の遺物を含む。その下層に暗灰黄色の粘土と砂質土が堆積していた。土地所有者の話によると、明治から大正時代頃に建っていた家には、敷地中央を南北に走る溝が掘られていたと祖母から伝え聞いていたとのことである。溝1はおそらく、その溝であろう。地表下25cmから35cmで、暗灰橙色砂質土の遺物包含層を検出した。包含層の厚さは6cm程度である。包含層中では、調査区中央付近から1の磁器中碗・2の軒平瓦・3の寛永通宝が出土した。包含層を剥くと黄褐色シルト層の地山面があらわれた。この面では溝2と土坑1を検出した。溝2は幅約40cm・深さ22cmを測り、南北方向へ伸びている。調査区東端で検出した土坑1は径1m以上・深さ12cmを測る。土坑1の埋土は橙色の焼土である。カマドか焚き火の痕跡であろうか。この遺構面の時期はその出土遺物から近世後期以後と推定される。

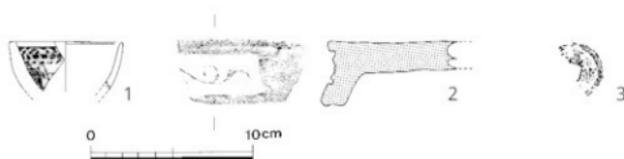


図9 陶邑窯跡群03-01区出土遺物



图10 陶邑窯跡群調査区位置図

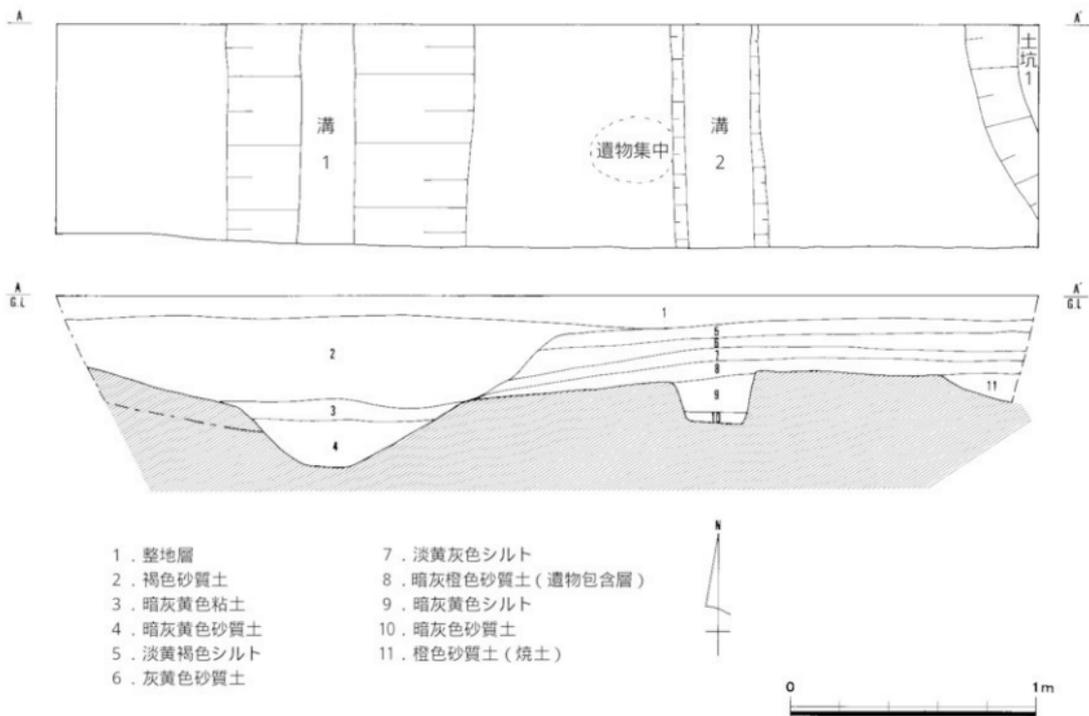


図11 陶邑窯跡群03—01区遺構平面断面図

ま と め

個人住宅等の開発を対象とした平成15年度の発掘調査は、いずれも小規模な調査が中心であり、一定の成果が得られた調査件数も少ないものであった。狭山藩陣屋跡では、03-02区・03-03区において、陶器窯跡群では、SM03-01区で個人住宅建築に伴う発掘調査を実施した。

狭山藩陣屋跡03-02区・03-03区では狭山藩陣屋跡下屋敷の北端付近を発掘した。土地利用の詳細な状況等は不明であるが、近世後期から近世末期のある時期には、絵図では屋敷地として記されていない部位においても、藩士邸宅が構えられていた可能性を示す資料であるといえよう。また、03-02区では、整地層中から須恵器塵の小片が出土している（図版4-2）。当該調査区の西側では、狭山池主谷の中位段丘崖を利用して、6世紀後葉から7世紀初頭の時期に須恵器窯が造営されており、狭山池2号窯・3号窯の灰原が発掘調査で確認されている。近世以後の開発に伴って、これらの窯の一部が破壊されたのであろうか、以前より当該調査区付近では須恵器小片がよく採集されている。

陶器窯跡群SM03-01区では、古墳時代の須恵器窯跡に関わる遺構・遺物を確認することができなかったが、近世後期以後と思われる遺構を検出した。陶器窯跡群中においては、旧街道付近などでの小規模開発に伴う発掘調査で、近世遺構が時折確認されている。今後の発掘調査によって、これらの地域における近世集落のあり方が少しずつ解明されていくであろう。

表1 出土遺物観察表

図面 図号	調査区	遺構・土層	器種	法量(cm)	施釉・文様・技法等	備考
4-1 4-3	SJ03-02	土坑1	土師質・五 寸皿	底径8.6 残存高1.6	内面：自然釉、外面：ヘラ削り 調整。	
4-2 4-4	SJ03-02	土坑5	石器・糞	底径23.0 残存高5.5	回転ナデ調整、底部外面無釉。	色調：褐色。胎土：密。長石を含 む。焼成：良好。
4-3 4-5	SJ03-02	土坑1	土師質・土 管？	口径7.0 残存高11.2	回転ナデ調整。	色調：褐色。胎土：密。長石。チ ャートを含む。焼成：良好。
8-1 5-13	SJ03-03	埋構1	陶器・糞	底径26.8 残存高21.5	灰釉。	
8-2 5-12	SJ03-03	埋構2	土師質・糞	底径30.0 残存高30.0	外面：5 条の柵目。	
8-3 5-11	SJ03-03	土坑2	土師質・糞	底径28.6 残存高29.5	外面：5 条の柵目。	
6-4 4-1	SJ03-03	土坑2	磁器・小瓶	口径7.0 残存高3.8	縁内四方襷、外面：染付青磁、透 明釉。	
9-1 4-8	SM03-01	包含層	磁器・中瓶	口径6.9 残存高3.0	内面：口縁部青色・ライン染付、 外面：染付青磁、透明釉。	
9-2 4-9	SM03-01	包含層	軒平瓦	残存長8.0 高さ4.0	唐草文。	
9-3 4-6	SM03-01	包含層	銭貨・寛永 通宝	幅2.3		残存：1 / 2。「寛」「通」の部位 のみ残存。

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおさかさやましなしいせきぐんはつくつちょうさがいようほうこくしょ14						
書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書14						
副書名							
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書						
シリーズ番号	30						
編著者名	植田隆司						
編集機関	大阪狭山市教育委員会						
所在地	〒589-0011 大阪府大阪狭山市狭山1丁目2384-1 TEL. 072-366-0011						
発行年月日	西暦 2004年3月31日						
所収遺跡	所在地	コード		調査区	北緯	東経	調査面積 m ²
		市町村	遺跡番号				
さやまはんじんやあと 狭山藩陣屋跡	おおさかふ おおさかさやましやま 大阪府 大阪狭山市狭山	27231	-	03-02	34° 30' 5"	135° 33' 22"	9.8
				03-03	34° 30' 5"	135° 33' 22"	12.4
すえむらようせきぐん 陶邑窯跡群	おおさかふ おおさかさやましひまぐま 大阪府 大阪狭山市今熊	27231	-	03-01	34° 29' 22"	135° 32' 55"	13.4
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
狭山藩陣屋跡	城館跡	江戸時代	03-02区 土坑・ピット 03-03区 埋溝・土坑・ピット	03-02区 土師質(皿・土管?)・ 襷 03-03区 磁器椀・陶器襷・土 師質襷			
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳時代・江戸時代	03-01区 溝・土坑	03-01区 磁器椀・軒平瓦・銭 貨(寛永通宝)			

図

版



a. 南東から



b. 北から



a. 西から



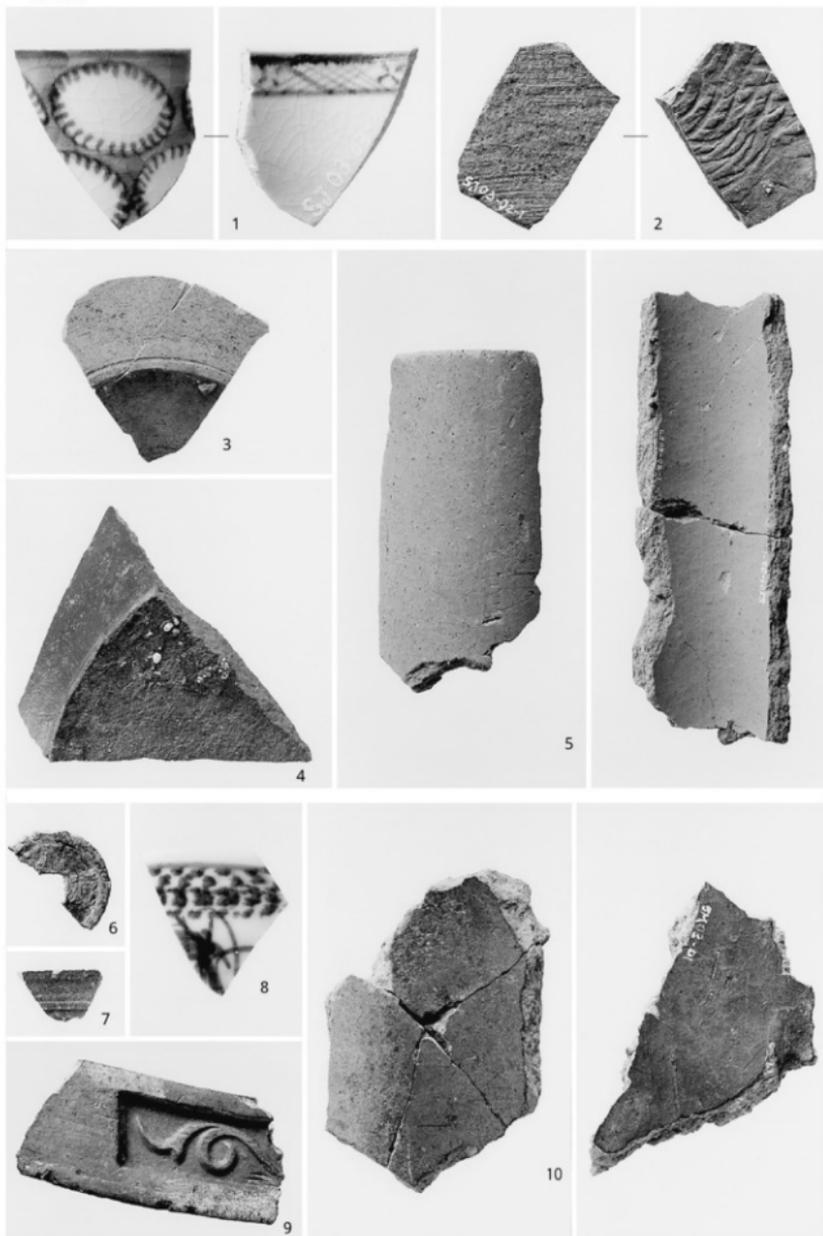
b. 埋戻



a. 第1トレンチ(北から)



b. 第2トレンチ(東から)





大阪狭山市文化財報告書30

大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書 14

発行日 平成16年(2004年)3月31日
編集・発行 大阪狭山市教育委員会
大阪府大阪狭山市狭山一丁目2384番地の1
印刷 橋本印刷株式会社
奈良県北葛城郡當麻町竹内365番地1号